

## 令和7年度第3回宇陀市総合計画審議会

日 時：令和7年9月16日(木) 午後3時00分～

場 所：宇陀市役所 4階大会議室

### 1. 開会

出席 19名 欠席 1名

副市長あいさつ

鴻池副市長：

忙しい中参集いただき感謝する。今回は令和7年度の3回目の審議会になる。

7月25日に開催した第2回の審議会は、令和6年度事業の検証と、後期基本計画の策定に向けた課題整理と施策の検討についてご議論いただいた。

本日は骨子案とリーディングプロジェクトについてご議論いただく。前回審議会でご審議いただいた施策案に基づいて府内の策定会や専門部会で検討し、骨子案・リーディングプロジェクトを策定しご提示している。後期基本計画策定は佳境に入ったところであり、引き続きご議論をよろしくお願ひする。

### 2. 後期基本計画の骨子案について

・後期基本計画の骨子案について

【資料1】 事務局より説明

伊藤会長：

ご意見、ご質問はあるか。

長相委員：

53の施策について、これまでの施策と比較して重要度を上げる、下げる、新規に加える、などの位置づけは今後設定されるのか。

事務局（田中課長）：

後期基本計画の骨子案では、これまでの中期基本計画と比較して大きく2点変えている。1点目、施策の加除である。中期基本計画を策定した4年前から市の置かれる状況や時代背景が変わっていることを踏まえ追加・削除を行っている。2点目、施策の見直しである。中期から引き継ぐ施策についてブラッシュアップをしている。追加・変更点が分かりにくいとのご意見を踏まえ表現方法を検討したい。

杉本委員 :

前回、前々回に出された意見の中で、集約されてしまった意見や、没になった意見はどこで分かるのか。これまでの意見内容に番号を付けて、この意見はどのようにしました、など意見の内容についての結末を明らかにしていただきたい。座談会、審議会等での議論内容を含めて整理いただきたい。例えば、転入者への補助は厚いが在住者への補助が薄い点や、林業について、企業誘致に関して市街化調整区域の規制がある点などの意見があったと思うが、それらの意見がどこに盛り込まれたのか分かるようにしていただきたい。

事務局（田中課長）：

前回からどこが変わったのかについては分かりにくい資料となっていることはお詫びする。今後のスケジュールで触れるが、当初予定では次の審議会を2月に予定していたが、それではまとめきれないため、11月に審議会を追加することを考えている。このスケジュールをお認め頂いたら、次回審議会で変更点について示したい。

また、前回の審議会で林業や土地利用についてのご意見があったが、その部分は後ほど説明するリーディングプロジェクトに盛り込む形で整理しているのでよろしくお願ひする。

杉本委員 :

本会議や座談会やWSで収集された意見は貴重であると思う。それら全てに結末を付けて欲しい。資料を拝見しながら、この意見はどこぞこの団体から反対されるかもしれない、ということを意識しているのではないかと感じるところがあった。この場は、外圧を抜きにして長期のことを考える場であると思う。

当然、意見内容が全て採用されるべきとは思わないが、長期の計画であるからこそ、目先の話ではなく、例えば多少痛みを伴っても桜井市と合併することはない、というような先手を打ったことを考えるべきではないか。対処療法が羅列されているように感じられる。隣の市に合併されるのを座して待つような状況に感じている。そうならないよう斬新な意見の結末を示していただきたい。

事務局（中尾主幹）：

前回の審議会資料の中で、座談会や各課ヒアリングの内容を示している。その内容をリーディングプロジェクトに反映しているが、少し分かりづらいところがあると思うため、整理をさせていただきたい。

事務局（勝村部長）：

それぞれの意見が最終的にどのように反映されているのか整理されたいとのご意見であった。各方面の専門家である各委員の意見を取りまとめて本日の資料としてお示ししているが、まだ十分でないところがあると思うので、本日も活発なご議論をお願いしたい。

伊藤会長：

本日の資料はあくまで骨子案であり、本日の意見を踏まえて修正されるものである。積極的にご意見いただきたい。

大門委員：

林業関係について、当森林組合は旧内牧小学校の跡地を活用したものである。同様の学校施設の関係で、アクティブセンターうだ、かえでの郷、「旧田口小学校」のように地域の施設になっているものがある。他方、使い道が無く解体された施設もある。

現状、市から借りた施設が事業展開につながっており助かっているところであるが、建物の老朽化については危惧せざるを得ない。最近では体育館施設の雨漏りが発生するようになっている。他の活用施設を含め、軽微の範囲を超えた修繕が必要であると考える。

後期の計画の中で、市の普通財産の維持管理について、使用者で対応できない部分に市が支援するような内容を盛り込むことはできないか。

事務局（勝村部長）：

旧小学校施設の活用については、国の地域再生計画の認定を受けて実施しているものである。これが宇陀市森林組合、アクティブセンターうだ、ふるさと元気村等につながっている。

このうち例えば、ふるさと元気村は行政財産になるので修繕ができるが、普通財産として貸し付けているものは、基本的には借り手の負担で修繕をお願いしたいと考えている。ただし、今回ご意見のあった大規模な修繕についての取り扱いはFM計画の見直しと合わせて検討していきたい。本日はご意見として頂戴する。

福山委員：

杉本委員の意見に通じるところがあるが、以前子育て世代で市長と意見交換をした際の内容がどこに反映されているのかが分かりにくいため、その内容を明記いただきたい。

また、その後も子育て世代で議論を続けている。母親世代は教育への関心が高い。資料に「学習状況調査の全国平均をやや下回る」との記載があるが、この年は2/3が早生まれであり、4月に実施される学習状況調査の結果が低くなるという傾向があるのだと思う。今年は早生まれが少ない傾向があるようである。単純に全国的な結果と比べるのではなく、大変だと思うが、市民の意見の反映をしっかり続けていただきたい。

事務局（田中課長）：

子育て世代との意見交換会は、私も参加し、非常に白熱したものであった。各座談会での意見内容はこの後説明するリーディングプロジェクトに反映しているので、その内容を把握いただきたい。また、総合計画のためだけに意見交換会をするわけではないとの意見があ

ったが、市長も子育て世代との意見交換会を継続したいという意向があるため、今後調整させていただきたい。

辻本委員：

施策の中で空き家バンクの記載がある。商工会は市の合併に先立ち4町村の商工会が合併して発足したが、当時は1,000事業所の会員数があったところ、現在は約750事業所となっている。高齢化や景気悪化に伴って廃業が増加している状況である。

また、先日廃業・倒産している方の話を伺ったところ、廃業・倒産後も自身が保有している土地を把握できていないという意見があった。それは地籍調査が終わっていないためである。そのため空き家バンクに引き取ってもらえない状況である。私の土地も町の中にあるが、地籍は山林になっており、そこに宅地並みの課税がなされている。これらの線引きが明確にならなくては、空き家の売買・賃貸は難しい。早期の地籍調査の完了を希望する。古市場でも令和13年以降の実施になると言われているが、その時には事業者がいなくなっている可能性が高く、本事業を早く進めていただきたい。

瀬野部長：

地籍調査は宇陀市の27%しか終わっていないのが現状である。現在第7次の計画を進めているが、市街地でも中々進んでいない状況ということは十分に承知している。今年度は榛原篠塚の地籍調査を4年かけて進めていくが、郊外地であるためなかなか進まない。職員を増やせばできるというものではない。ご意見のとおり、現況を分かっているのは今いる事業者であるということは重々承知しており、早期に進めていきたいところだが、現行計画を進めるのが精一杯であること、ご理解いただきたい。

辻本委員：

土地を活用したいが地籍が明確化されておらず商売ができないという事例がいくつもある。至急進めていただきたい。

小浦委員：

53の施策を見ていると基本的には中期基本計画から継続されているようである。しかし、現状と課題は時代と共に変わっているのだと思う。高齢化・人口減少への対応や、施設の再配置の要請が出てきているところである。これらのご意見を分類した一覧表があれば議論しやすいと思う。総合計画は網羅的に記載する計画であると思うが、特にリーディングプロジェクトに載らないが継続的に取り組んでいく必要がある事項について、分かるようにしていただきたい。

2点目、宇陀らしさの見せ方が弱いように感じる。重点施策につながる項目については、宇陀らしい表現にしてほしい。地域らしさというのは重要である。例えば土地利用について

の意見があつたが県の動きを聞いていると極端な動きになりそうである。その中で宇陀市の方針を定めてやつていく必要がある。施策は同じでもどう進めるのか、どう決めていくのか、といった物事の進め方の部分で宇陀らしい記載があつても良いのではと思う。

事務局（田中課長）：

53 の施策について中期基本計画から大きく変わっていないのではないか、というご意見であった。本計画は金剛市長が就任されてから2回目の計画である。現在、宇陀市が直面している人口減少・雇用の確保・子育て支援等の施策は、短期的に効果が出るものではなく、長期的に取り組む必要があると認識している。こうした視点から施策が似通つてくるのはある程度仕方がないところがあり、全体的な方向性は維持しつつ、実効性を高めるために計画の磨き直しをしているものとご認識いただきたい。

2点目、宇陀らしさについては、リーディングプロジェクトに盛り込んでいきたい。

資料の見せ方については配慮が不足していたと感じているため、次回審議会で見直しを行いたい。

最後に、意見交換会については今後も継続し、計画策定だけでなく計画の検証にもつなげていきたい。

小浦委員：

計画の磨き直しは良い表現であるが、それが分かるような資料の作り方にしていただきたい。また、意見交換会については、計画策定を終えた後の施策の進め方に関する部分であると思う。進め方が今後大事になるところであると思う。

伊藤会長：

ほかに意見はあるか。リーディングプロジェクトに関する意見が多かったと思われるため、その説明に移りたい。

### 3. リーディングプロジェクトについて

・リーディングプロジェクトについて

【資料2】 事務局より説明

伊藤会長：

ご質問、ご意見、ご感想はあるか。

小浦委員：

p. 68-69 と p. 70 の関係性について再度ご説明いただきたい。

事務局（田中課長）：

p. 68-69 の中で 3 つ以上〇が付いている施策を p. 70 に載せている。ただし、リーディングプロジェクトを庁内で検討するにあたり、今後の施策として不足していると意見があつたものは追加している。p. 68-69 で記載している施策は基本的に全て p. 70 に載せている。

小浦委員：

例えば、施策 25 はどこに入っているのか。

事務局（田中課長）：

「宇陀ではたらく」の上から 2 つが該当する。

小浦委員

表現を変えているということか。

事務局（田中課長）：

その通りである。リーディングプロジェクトに移すにあたり体言止めになるよう表現を変更している。

吉本委員：

「宇陀ではたらく」の「地元事業者の経営基盤強化と事業承継の支援」について、これまでの実績を踏まえて、どのような支援方法を検討されているのか。

東部長：

商工産業課では、事業承継が一番課題であると感じている。いきなり事業承継はできないため 2・3 年かけて事業承継を図っていく必要がある。今後の取組みとしては、商工会との連携により都市部から移住してきた人材とのマッチングをしていきたい。宇陀市内で起業した例は市内では実績がないが、金融機関・商工会と連携して事業者が上手くいくよう進めていきたい。

吉本委員：

金融機関としても手伝いをしていきたい。事業承継は大きな課題だが、それ以上に人材確保が課題であると感じている。先ほど廃業という話があったが、廃業に至った理由は人材不足が最も多い。特にマネージャーや経営人材が枯渇している。現場ではそうした人材へのニーズが非常に高い。施策 29 に成長支援と事業承継という文言が入っており、成長支援の中に人材確保が含まれると思うが、市として人材確保に支援をしていくということを明確に打ち出していった方が事業者も安心できるのではないか。

東部長：

9月26日に宇陀市の事業者を対象として合同事業説明会を開催する。ハローワーク桜井と連携した取組で4回目になる。その中で採用に至った例もある。しかし、マネージャーのような専門的な人材確保にはつながっていない。そのための取組みは今後検討したい。

長相委員：

施策38をみると、ニーズ把握の全てに丸が付いているが、市長公約は4つのうち、1つ目だけが網掛けになっている。これもリーディングプロジェクトに反映されているということか。

事務局（田中課長）：

施策38はリーディングプロジェクトのうち「宇陀でくらす」の上から8つ目にあたる「子どもたちの未来を育む教育環境の整備」が対応している。給食の無償化については、令和6年から実施済みであるため、リーディングプロジェクトには記載していない。

なお、市長公約との対応の中で黒く網掛けになっている部分は、市長公約において特に力を入れると記載されている施策である。

福山委員：

目指すまちの姿は12年間変わらないと承知しているが、中期基本計画の施策と後期基本計画の施策は文言を変えただけに見える。市民が感じている社会的課題は複数の施策に跨っていると思うが、ある課題を解決するための施策はいくつかに絞れるのではないか。53の施策が必要なのか。中期と同じような内容で今後5年間を実行しても宇陀市は良くならないのではないかと感じている。

事務局（田中課長）：

総合計画は宇陀市が進むべき指針であり、目指す方向を大きく変えるべきものではないと考えている。また、市が実施する施策を網羅的に掲載せざるを得ない性格の計画である。金剛市長の就任時に策定した中期基本計画において示した方向性から大きく変わっておらず、53の施策を引き継いでいるということは、それほど違和感はないのではないかと認識している。

この中からどのように宇陀市の特徴を出していくのか、という点については、リーディングプロジェクトの中で施策の優先度を付けることで示していきたいと考えている。

伊藤会長：

分かりにくいところであるが、市長を船長、宇陀市が船として北極星を目指すとしたときに、天候等の条件が変化する中で、様々な航路がある中で53の施策のどこに重点を置いて

いくか、というものである。

リーディングプロジェクトについては各柱で1つになっているが、複数あっても良いと思う。例えば「宇陀でくらす」については教育も太字に追加しても良いのではと思う。

市民ニーズと行政ニーズに差がある中で判断されていると思うが、それが正しいとは限らないので、本日の会議や今後の意見交換会の中で議論されていけば良いのではと思う。遠慮なく意見を出していただきたい。

山田委員：

「宇陀でくらす」について「子どもたちの未来を育む教育環境の整備」は全国的な課題である。「地域とともに進める学校の適正化」が重点になっていないということが市民の意識とズレているように思う。宇陀市には働いている人、高齢になり退職された人、働きに出ている人、農林業をしている人など、様々な人がいる中で、重点施策を1つにするのは違うのではないか。これを市民に示した時に、施策の対象となっていない人ががっかりされると思う。各柱せめて2つは重点に挙げて良いと思う。

事務局（田中課長）：

リーディングプロジェクトについては、特に力をいれる施策は各柱1つずつとしているが、今後、2～3つに増やすことも検討したい。ご意見感謝する。

西角委員：

p. 70 の「宇陀ですすめる」の「マイナンバーカードを活用した行政手続きの簡素化」について、先日マイナンバーカードの更新を行ったが、実際はほとんど簡素化されていなかつた。行政の目標としては、個人の財産や納税の把握にあると思うが、市民の理解が得られていない中で、簡素化を進めるというのは綺麗事に過ぎないのではないか。

また、高齢者にとっての一番の難点はパスワードである。パスワードを覚えていられない中で、本当にできるのかと考える。

丸岡委員：

「宇陀でくらす」の「学校の適正化」については諸刃の剣であると感じる。進めるほど人口減少が進むのではないかと心配している。財政状況が厳しいことは認識しているが、市内に小中学校1校ずつなどの状況になれば若い人は残らないと思う。

西田委員：

宇陀市の人口が減少する中で、店舗の減少が目立ってきた。先々を考えると寂しいところである。菟田野ではスーパーが1店閉業になった。人口を増やすための施策についてはどのように考えているのか。空き家活用などにより宇陀市に来てもらう必要がある。若者が転入

しやすいように補助を付けるなど、宇陀市が少しでも長持ちするよう、人口を増やす施策をしなくてはいけないと思う。

事務局（田中課長）：

人口減少への対応について、直接的につながる施策は無いが、「安心して子育てできる支援体制の整備」や「ニーズに応じた地域公共交通の確保」などの各施策を複合的に機能させることにより、宇陀市の良さを向上させ、人口増加につなげたいと考えている。

事務局（勝村部長）：

p. 67 に示したリーディングプロジェクト全体が宇陀市で地方創生を進めるための計画になる。人口減少対策は空き家対策などターゲットを絞った施策をする前に、宇陀市民が宇陀市に住み続けたいと思うための総合的な施策を行う必要がある。

子育て対策など、県内でも高い水準で力を入れているが、人口は減少しており、出生率も伸びていないというところである。国が地方創生 2.0 の中で示しているのは、人口減少の見込みが立っている中で、どのように持続可能な自治体を対応していくかということになる。

そのような中で、病院等を核としたまちづくりや教育のまちづくりが必要という意見を後期基本計画に反映していきたいと考えている。

地方創生は宇陀市だけでなく日本全体で動いている。西角委員からご指摘があったマイナンバー制度も日本全体の施策であり、宇陀市だけではどうしようもできない。しかし、それらを活用して、市役所に来庁しなくとも行政手続きができるようにしたい、という意図で掲げている。今後 4 年で完結するものだけでなく、今後始めていく施策もあるとご理解いただきたい。

また、本日の議論を踏まえ、誰がプレイヤーになるか、ということを明確にする必要があるのだと思う。担い手不足が深刻化する中で、どのように宇陀市への呼び込みを図るのかが課題である。

伊藤会長：

ほかに意見があれば事務局にて取りまとめいただきたい。

#### 4. 今後のスケジュールについて

・今後のスケジュールについて

【資料 3】 事務局より説明

伊藤会長：

ご意見、ご質問はあるか。

無いようなので、以上とする。